

科目名	物理学	必修/選択の別	必修
授業担当者	竹内 智	評価方法	筆記試験
履修年次	1年・前期	授業形式	講義形式
単位数	1単位	時間数	30時間

#### <到達目標>

1. 看護で必要とされる基礎的な物理を理解する上で必要な数学の基礎が理解できる。
2. 看護に必要とされる基礎的な物理の原理やその応用について理解できる。

#### <授業内容>

- 第1回 看護×数学 なぜ看護に数学が必要なのか、その理由 2H  
 第2回 看護の基本となる計算 2H  
 第3回 看護のよく出る単位と計算 2H  
 第4回 実習・国試に必要な看護計算の方法 2H  
 第5回 看護に関係の深いグラフとその書き方・読み方 2H  
 第6回 演習問題 解答及び解説 2H  
 第7回 演習問題 解答及び解説 2H  
 第8回 中間テストの解答及び解説 2H  
 第9回 看護×物理 なぜ看護に物理が必要なのか、その理由 2H  
 第10回 看護の基礎となる力の話 2H  
 第11回 看護の基礎となる電気の話 2H  
 第12回 看護の基礎となる波の話 2H  
 第13回 看護に必要な放射線の話 2H  
 第14回 演習問題 解答及び解説 2H  
 第15回 演習問題 解答及び解説 2H

#### <授業方法>

第1～5回については講義を行う。第6・7回でそれに関連する演習問題を行い、同時に対等と解説を行う。  
 第7回目には中間テストの解答及び解説を行う。さらに、第9～13回については講義を行う。  
 第14・15回でそれに関連する演習問題を行い、同時に対等と解説を行う。

#### <評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。  
 中間テスト及び期末テストを実施し、2つのテストの合計点を100点として評価する。

#### <必携図書>

看護に必要なやり直し数学・物理（照林社）

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

講義の前に予習しておくこと、講義後には復習して理解を確実にすること。  
 講義の時間内で理解できるよう、集中して受講すること。  
 演習問題は内容が理解できるまで、繰り返して問題を解くこと。

#### <履修上の注意点>

講義を履修する前に、中学や高校で勉強した数学の教科書で、基礎的な公式を再度確認しておくこと。

#### <学生に向けてのメッセージ>

講義の内容が理解ができなくなっても途中で諦めて投げ出さないこと。  
 先生や友達に聞いて、一つずつ問題を解決してゆく努力をしてください。必ず理解できるようになります。

<b>科目名</b>	哲学	<b>必修/選択の別</b>	必須
<b>授業担当者</b>	藤谷 秀	<b>評価方法</b>	レポート評価
<b>履修年次</b>	1年・後期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

#### <到達目標>

様々な思想家の残した言葉にふれながら、そこで示されたテーマを自ら考え、以下の点を学ぶ。

1. 人間社会の諸現象を捉える考え方、見方について学ぶ。
2. 生命観・社会観・患者観を形成する基礎を学ぶ。

#### <授業内容>

第1回	自己紹介と授業計画の説明	2H
第2回	西洋哲学の流れの概説	2H
第3回	「哲学する」ことの意味	2H
第4回	哲学の言葉一解説と学生コメント (1)	2H
第5回	哲学の言葉一解説と学生コメント (2)	2H
第6回	哲学の言葉一解説と学生コメント (3)	2H
第7回	哲学の言葉一解説と学生コメント (4)	2H
第8回	哲学の言葉一解説と学生コメント (5)	2H
第9回	哲学の言葉一解説と学生コメント (6)	2H
第10回	哲学の言葉一解説と学生コメント (7)	2H
第11回	哲学の言葉一解説と学生コメント (8)	2H
第12回	哲学の言葉一解説と学生コメント (9)	2H
第13回	学生が自分で創作した言葉を発表 (1)	2H
第14回	学生が自分で創作した言葉を発表 (2)	2H
第15回	学生が自分で創作した言葉を発表 (3)	2H

#### <授業方法>

#### <評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもってレポート評価を受ける資格が得られる。

#### <必携図書>

必携図書はない。講師が準備する資料で講義をすすめる。

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

フォーラム哲学編「言葉がひらく哲学の扉」青木書店  
フォーラム哲学編「翼ある言葉」青木書店

#### <履修上の注意点>

#### <学生に向けてのメッセージ>

科目名	統計学	必修/選択の別	必修
授業担当者	山田 伸志	評価方法	筆記試験
履修年次	3年前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

#### <到達目標>

全体としての集団の特徴を把握することによって、患者個人のデータの特徴あるいは位置づけを考えられるようにする。患者は体力が平均から離れている弱い状態の人が多く、人間として成長し、患者を見る目を広く大きく柔軟にする。知識を学ぶのではなく、考える力を身につけたい。

#### <授業内容>

- 第1回 看護における統計学の役割、人間あるいは患者の個人差、統計における式の優先順序の確認と電卓における式の優先順序の確認、大数の法則を理解する。 2H
- 第2回 確率の意味と期待値、統計における数値の重要度を見極める力を付ける。 2H
- 第3回 グラフと表から、事実を読み取る力、それがなぜ起こっているかを判断する力、今後どうすべきかを考える力を養う。 2H
- 第4回 平均値と標準偏差を求める計算法を理解し、電卓を使って実際に求める力を養う。代表値としての、平均値、最頻値、中央値を理解する。 2H
- 第5回 正規分布の意味、標準偏差を用いて個人差を計算する方法、個人差の程度を判断する考え方を学ぶ。
- 第6回 2項分布の考え方と実例、ポアソン分布の実例、実際の調査事例における分布の問題点を理解する力を養う。 2H
- 第7回 2つの集団における相関関係、相関係数と因果関係、原因と結果の解釈における問題点を把握し、正しい原因を探る力を養う。 2H
- 第8回 母集団からの標本抽出の方法、偏りの無い抽出法、多段抽出、層化抽出、無作為抽出 2H
- 第9回 現実社会において実際に行われている標本抽出の問題点の指摘をする力を養い、どうすべきかを考える力を養う。 2H
- 第10回 平均値の信頼区間の計算法、平均値の信頼性の考え方、帰無仮説の考え方を学ぶ。 2H
- 第11回 治癒率における比率の差の検定、2つの集団における有意差検定の方法を学ぶ。有意差検定の利用における信頼性の限界も学ぶ。 2H
- 第12回 デジタル技術の原理、情報の扱い方、情報における危険性を理解する。 2H
- 第13回 統計の実例として、集団検診におけるデータの挙動、年齢調整死亡率、医学で使われている数値、数値の間違いによる医療過誤の関係を理解する。 2H
- 第14回 患者の状況を理解し対処する看護師としてのセンスを身につけるための、将来に渡る技術を蓄積するための態度、人間としての成長を通して、看護師の職務と人間として成長をするための生き方を学ぶ。 2H
- 第15回 試験対策・終講試験

#### <授業方法の詳細>

基本的には講義であるが、実際に電卓で計算する。数字の持っている大事な部分と不要な部分を識別する力を付ける。自分の頭で、未知なものを考える力を身につけるように質疑応答を行う。

#### <評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。評価は、前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。基本的に理解して欲しい部分を主に試験には出す。

#### <必携図書>

山田伸也他,ナースの統計学,パワー社 持ち物:電卓、A4の方眼紙

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

予習も復習も不必要である。授業中にしっかりと質疑応答をし、考える力を養って欲しい。知識技術を覚えるのではなく、将来のために、広く考える力を身に付けることが主眼である。

#### <履修上の注意点>

一生使うための電卓を購入する。計算実習も行う。授業資料を活用できるようファイリングし整理しておきましょう。

#### <学生に向けてのメッセージ>

統計の授業では、予習も復習もいらない。覚えることは少しでいい。考える力を身につけて欲しい。正解を覚える姿勢では無く、考える力を付けて欲しい。知識は時代と共に変化するが、柔軟に考える力は、ナースとして一生使っていける。実社会の中で、大きな人間になるための素地を作って欲しい。

科目名	社会学	必修/選択の別	必修
授業担当者	高木 寛之	評価方法	レポート評価
履修年次	3年・前期	授業形式	講義形式
単位数	1単位	時間数	30時間

#### <到達目標>

1. 社会学の基礎を学び、社会的存在としての人間を理解する。
2. 社会言動が社会的存在としての人間の社会に与える影響を理解する。
3. 事例を通して社会保険と社会学の関係性およびその重要性を理解する。

#### <授業内容>

第1回	社会学の基礎概念（第1章）	2H
第2回	社会学的視点とモデル（第2章）	2H
第3回	保健医療と社会学（第3章）	2H
第4回	社会調査の理論と方法（第4章）	2H
第5回	健康・病気・ストレスの見方（第5章）	2H
第6回	健康・病気の社会格差（第6章）	2H
第7回	仕事と健康・病気（第7章）	2H
第8回	保健・病気行動と病経験（第8章）	2H
第9回	患者とのコミュニケーション（第9章）	2H
第10回	福祉医療の専門職（第10章/第15章）	2H
第11回	性・ジェンダー・家族と保健医療（第11章）	2H
第12回	地域社会と保健福祉（第12章）	2H
第13回	保健医療制度（第13章/第14章）	
第14回・第15回	まとめ	4H

#### <授業方法>

講師作成資料と教科書、映像資料を用いて講義形式ですすめる。  
授業内容に応じて、学生同士のグループワークを実施する。

#### <評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席をもって、筆記試験の受験資格が得られる。  
評価は、毎回のコメントシート(20%)、および前期終講試験(80%)の総合得点で評価をする。

#### <必携図書>

テキスト:「系統看護学講座 基礎分野 社会学」医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

参考書:各都道府県、市町村が作成している保健・医療・健康に関する行政計画

#### <履修上の注意点>

事前にテキスト該当箇所を読み、テキストで示される専門知識が社会においてどのように具現化されているのかを考えてくること。

授業では、学生同士のディスカッションがあるため、テキストだけでなく社会に発信されている情報に目を通すこと。

#### <学生に向けてのメッセージ>

社会学は、病気や障害を持った子どもから大人までが生活する社会を理解する重要な科目です。

看護業務との直接的な結びつきは見えにくいですが、この科目での学びが看護業務のどの場面で活かすことができるのかを自身で考えながら学びを深めてください。

<b>科目名</b>	心理学	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	文珠 紀久野	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	1年・前期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	2単位	<b>時間数</b>	30時間

#### <到達目標>

- 1.人を心理学観点からとらえることができる
- 2.人の発達(誕生から死まで)を理解できる
- 3.人を心理学的に測る方法を理解できる

#### <授業内容>

- 第1回 心理学とはなにか、心理学の歴史 2H
- 第2回 人を測る方法、心理学の研究方法 2H
- 第3回 性格とはなにか、性格の形成 2H
- 第4回 心とはなにか、心の構造と機能 2H
- 第5回 無意識の働き、コンプレックス、防衛機制 2H
- 第6回 欲求、動機 2H
- 第7回 学習理論、学習方法 2H
- 第8回 記憶、知覚 2H
- 第9回 発達とはなにか、発達段階 2H
- 第10回 新生児期、乳児期の特徴 2H
- 第11回 幼児期の特徴 2H
- 第12回 児童期の特徴と問題行動 2H
- 第13回 青年期の特徴と問題行動 2H
- 第14回 成人期の特徴と問題行動 2H
- 第15回 老年期の特徴と問題行動、障害児(者)の発達における特徴 2H

#### <授業方法>

基本は講義形式で行います。  
 必要に応じて、VTR等視聴覚教材を用いて理解を深めます。  
 授業ごとに「今日のふりかえり」を記入し、自分の学習状況をふりかえります。

#### <評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。  
 評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

特にありません。

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

授業後に、その日配布されたプリントを復習しておくことをお勧めします。  
 乳幼児、老人に積極的にかかわり、その特徴を体験的に理解できるようにしておくといでしょう。  
 必要に応じて授業時に参考になる図書を紹介しますので、ぜひ読んでおいてください。

#### <履修上の注意点>

授業ごとに資料を配布します。ファイルして綴じておくようにしてください。

#### <学生に向けてのメッセージ>

学問としての心理学を学び、患者さんを理解し、よりよい看護を实践できるよう、役立ててくださることを願っています。

科目名	教育学	必修/選択の別	必修
授業担当者	高橋 英児	評価方法	レポート評価
履修年次	3年・前期	授業形式	講義形式
単位数	1単位	時間数	30時間

### <到達目標>

現在の子ども・若者が抱える発達・成長の具体的な諸問題を検討することを通して、  
 1)人間の成長・発達と学習、そして社会について探求し、教育の役割について考える  
 2)人と人が関わり合い、共に育つための教育の在り方を考える

### <授業内容>

第1講：オリエンテーション

〈子どもの心とからだの声をきくー私たちの子ども観・発達観を見直す〉

第2講：子どもの「自分くずし」と「自分づくり」ー子どもの成長と自立

第3講：子ども・若者たちの生活現実と生活世界を探る

第4講：子どもと大人が生活している社会を考える(1)ー子どもの貧困を考える

第5講：子どもと大人が生活している社会を考える(2)ー家族問題、虐待を考える

〈おとなは子どもと出会えるか／子どもはおとなと出会えるか〉

第7講：「やさしい」子どもたち・若者たち(1)ーケータイコミュニケーション

第8講：「やさしい」子どもたち・若者たち(2)ーみんなぼっちの世界

第9講：「つながり」で葛藤する子どもたち・若者たち(1)ー「友だち」と「ひとり」の間で

第10講：「つながり」で葛藤する子どもたち・若者たち(2)ーいじめ問題を考える

第11講：「つながり」で葛藤する子どもたち・若者たち(3)ーいじめ問題を超える

〈「共育」の世界へー関わり合い・とも育ちの関係をどうつくるか〉

第12講：「困った子」は「困っている子」ー「障がい」を考える

第13講：大人と子どもが出会うとき(1)ー実習指導を振り返る

第14講：大人と子どもが出会うとき(2)ー「指導」とは何か？

第15講：教育の中の希望、希望としての教育

### <授業方法>

「自分が当事者だったら、どう考え、行動するか」という視点から、現在の子ども・若者が抱える発達・成長の具体的な諸問題を考える。そして、そのことを通して、人間の成長・発達や教育のあり方を考えるだけでなく、私たちを取り巻く社会について視野を広げていく。講義だけでなくビデオ・実践記録を用い、それに関する意見交換・討論を行う。

### <評価方法の詳細>

毎回の講義におけるミニレポート・ミニワークによる日常的な評価及び講義中の課題(複数回)、終講時のレポート課題

### <必携図書>

以下の図書は、必携ではありませんが、講義で扱う内容についての基本的なことが多く書かれています。

山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志『新しい時代の生活指導』有斐閣、2014年

### <自己学習のポイント及び参考図書>

学び＝様々な現実・事実を「知ること」「問うこと(疑うこと)」「確かめること」ー当事者としての学びを大切に

講義で扱った「問題」は「誰の」問題か、なぜ／どういう理由で「問題」なのか？ なぜこのような「問題」が生まれるのかを

問うこと。講義で学ぶ内容について講義で扱ったテーマ・内容で興味を持ったものについては、自分で調べたり、講義

で紹介した参考文献や資料を紹介するので、興味のある内容については何冊か手にとって読んで下さい。

教育問題を通して、私たちはどんな時代・社会を生活しているのかを考えるようにして下さい。

### <履修上の注意点>

講義中に、複数回、課題を提出してもらう予定です。

### <学生に向けてのメッセージ>

「出席」から「参加」へー共同探求的な授業を目指しているので、授業への学生諸君の主体的な参加を望みます。授業は、受身の姿勢やただ座っているだけの人には厳しいものとなります。

科目名	外国語 I	必修/選択の別	必修
授業担当者	三満田 美恵	評価方法	筆記試験
履修年次	1年・後期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

#### <到達目標>

1. 英語に対する苦手意識を取り除き、国際社会に対し前向きな心を養う。
2. 外国人患者との意思疎通の手段としての英語を理解する。
  - ・体の部位の英単語を正しい発音で学ぶ。
  - ・病院内で活用できる基本的な会話を習得する。
  - ・英語特有のリズムを身につける。

#### <授業内容>

- 第1回 ウォーミングアップ  
Unit 1-“Please speak more slowly.”-急に英語で話しかけられたときの応対《ダイアログ音読トレーニング》 2H
- 第2回 Unit 1-Checkpoint 新しい表現と運用練習 2H
- 第3回 Unit 2-“Where are you from?”-自己紹介のときなどに使う基本的な質問と答え方《ダイアログ音読トレーニング》
- 第4回 Unit 2-Checkpoint 新しい表現と運用練習 2H
- 第5回 Unit 3-“Could you tell me your address, please?”-住所、電話番号、日付の表現と丁寧な質問のしかた  
《ダイアログ音読トレーニング》 2H
- 第6回 Unit 3-Checkpoint 新しい表現と運用練習 2H
- 第7回 Unit 4-“What department do you want to visit?”-初心の患者が訪れたときに使う、基本的な質問  
《ダイアログ音読トレーニング》 2H
- 第8回 Unit 4-Checkpoint-新しい表現と運用練習 2H
- 第9回 Unit 5-“Where is the X-ray department?”-道順の尋ね方と答え方《ダイアログ音読トレーニング》 2H
- 第10回 Unit 5-Checkpoint-新しい表現と運用練習 2H
- 第11回 Unit 6-“What are your symptoms?”-症状の尋ね方《ダイアログ音読トレーニング》 2H
- 第12回 Unit 6-Checkpoint-新しい表現と運用練習 2H
- 第13回、第14回 映画鑑賞-感想文-スピーキングテスト 2H
- 第15回 テスト準備 2H

#### <授業方法>

知識だけでなく、使える単語力を効率よく身につけるために、音読筆写と単語リストのリズム読みを毎回行います。音読トレーニング(スラッシュリーディング、シャドウィング等)で会話表現の引き出しを増やします。音読トレーニングで英語の正確さにこだわりすぎず、「患者さんとの意思疎通の手段」という意識を持ちエクササイズ等をこなしていきます。

#### <評価方法の詳細>

感想文、スピーキングテスト、筆記試験

#### <必携図書>

クリスティーンのやさしい看護英会話, 医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

予習よりも復習をお勧めします。授業で理解し、正しい発音、リズムで練習した内容の記憶を頻繁に呼び戻し繰り返し口を動かすことによって全身に定着していきます。好きなフレーズから繰り返し口に出してみましょう。耳と口は育ちます。

#### <履修上の注意点>

教科書を忘れないこと。  
音読筆写で手が疲れないよう筆圧が少なくても書けるペンをお勧めします。

#### <学生に向けてのメッセージ>

ここで学ぶ英語はコミュニケーションの手段です。英語により、より多くの人たちと意思疎通がはかれることの喜びを知って欲しいと思います。最初は単語単位での会話からスタートでもよいのです。ジェスチャー、表情、気持ちがあれば伝わります。Don't worry about making mistakes! Let's speak up!

科目名	外国語Ⅱ	必修/選択の別	必修
授業担当者	三満田 美恵	評価方法	筆記試験
履修年次	2年・後期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

#### <到達目標>

1. 英語に対する苦手意識を取り除き、国際社会に対し前向きな心を養う。
2. 外国人患者との意思疎通の手段として英語を練習する。
  - ・看護に関する単語、症状や病名の単語を正しい発音で学ぶ。
  - ・病院内で活用できる基本的な会話表現を増やす。
  - ・英語特有のリズムを身につける。

#### <授業内容>

- 第1回 Unit 7-“Where does it hurt?”-症状の尋ね方を覚える《ダイアログ音読トレーニング》 2H
- 第2回 Unit 7-Checkpoint 新しい表現と運用練習 2H
- 第3回 Unit 8-“Have you ever had any serious illnesses?”-病歴の尋ね方、時の表現を覚える 2H
- 第4回 Unit 8-Checkpoint 新しい表現と運用練習 2H
- 第5回 Unit 9-“Take one tablet, four times a day?”-薬の服用に起案する表現、頻度の聞き方と答え方  
《ダイアログ音読トレーニング》 2H
- 第6回 Unit 9-Checkpoint 新しい表現と運用練習 2H
- 第7回 Unit 10-“Let me make an appointment for your test?”-予約の取り方、検査に関する表現 2H
- 第8回 Unit 10-Checkpoint-新しい表現と運用練習 2H
- 第9回 Unit 11-“Your surgery will be tomorrow at 8 am.”-手術に関する表現を覚える《will音読トレーニング》  
-未来系be going toとwillの使い方。 2H
- 第10回 Unit 11-Checkpoint-新しい表現と運用練習 2H
- 第11回 Unit 12-“How are you feeling today?”-入院患者によくする質問を覚え 《ダイアログ音読トレーニング》
- 第12回 Unit 12-Checkpoint-新しい表現と運用練習 2H
- 第13回、第14回 映画鑑賞-感想文-スピーキングテスト 2H
- 第15回 テスト準備 2H

#### <授業方法>

知識だけでなく、使える単語力を効率よく身につけるために、音読筆写と単語リストのリズム読みを毎回行います。音読トレーニング(スラッシュリーディング、シャドウイング等)で会話表現の引き出しを増やします。音読トレーニングで身につけた表現を使い英語の正確さにこだわりすぎず、「患者さんとの意思疎通の手段」という意識を持ちエクササイズ等をこなしていきます。

#### <評価方法の詳細>

出席時間の2/3以上の出席をもって筆記試験の資格が得られる。試験の点数配分は筆記試験は90点、感想文とスピーキングテストが10点である。

#### <必携図書>

クリスティーンのやさしい看護英会話

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

1年次と同じく予習よりも復習をお勧めします。授業で理解し、正しい発音、リズムで練習した内容の記憶を頻繁に呼び返し繰り返し口を動かすことによって全身に定着していきます。英語の授業は後期だけですが、言語は習慣が大切なので、授業がない前期も時々ダイアログを読む等して触れているとよいです。

#### <履修上の注意点>

教科書をわすれないこと。音読筆写で手が疲れないよう筆圧が少なくても書けるペンをお勧めします。

#### <学生に向けてのメッセージ>

1年次に続き、間違いを恐れず発話しましょう。授業中の間違いは何のリスクもありません。たくさん間違いながら、授業の中で自分の言いたいこと、言えないことを発見し、解決し、本番に備えましょう。

Practice makes perfect! Hang in there!

科目名	外国語Ⅲ	必修/選択の別	必修
授業担当者	三満田 美恵	評価方法	筆記試験
履修年次	3年・前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

#### <到達目標>

1. 英語に対する苦手意識を取り除き、国際社会に対し前向きな心を養う。
2. 外国人患者との意思疎通の手段としての英語を身につける。
  - ・病名の単語を正しい発音で学ぶ。
  - ・病院内で活用できる実践的な会話力をつける。

#### <授業内容>

- 第1回 First Encounter 初対面の対応－院内案内と各課の名称 2H  
第2回 Symptoms 症状についての会話－2年次の単語復習等 2H  
第3回 Patient Profile 患者のプロフィール－文化的、社会的背景を聴取する 2H  
第4回 Medial History and Lifestyle Habits 病歴と生活習慣－病歴家族歴、生活習慣について聴取する 2H  
第5回 Unit Orientation 病棟内のオリエンテーション－病棟内の案内と規則の説明 2H  
第6回 Activities of Daily Living①-ADLについて聴取する、-ADL介助を行うときの患者への対応 2H  
第7回 Activities of Daily Living②-ADLについて聴取する、-ADL介助を行うときの患者への対応 2H  
第8回 Vital Signs バイタルサイン①－バイタルサインを測定するときの対応 2H  
第9回 Vital Signs バイタルサイン②－バイタルサインを測定するときの対応 2H  
第10回 Tests and Procedures① 検査と処置－処置や検査をするときの指示や説明、処置中に安心感をあたえる表現 2H  
第11回 Medication Administration-処方薬の管理－服用中の薬について聴取、一薬の飲み方、注意事項の説明 2H  
第12回 Discharge Instructions 退院時の指導－退院後の自己管理や生活指導の説明 2H  
第13回、第14回 映画鑑賞－感想文－スピーキングテスト 2H  
第15回 テスト準備 2H

#### <授業方法>

- 1、2年次の授業で身につけた基礎的な会話力や単語力に肉付けをしていきます。
- 講師の準備する資料を基に会話をしていきます。

#### <評価方法の詳細>

出席時間の2/3以上の出席をもって筆記試験の資格が得られる。試験の点数配分は筆記試験は90点、感想文とスピーキングテストが10点である。

#### <必携図書>

クリスティーンのやさしい英会話(復習用)

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

1、2年次で練習した会話表現の応用ですので予習として、1、2年次で使用した「クリスティーンのやさしい英会話」の復習をしておくといいです。

#### <履修上の注意点>

音読筆写で手が疲れないよう筆圧が少なくても書けるペンをお勧めします。

#### <学生に向けてのメッセージ>

多忙な時期の皆さんですので、予習、復習に時間をかけず、短期集中型の授業です。なので、英語の授業の間だけは英語に集中しましょう。結果的にテスト前の時間短縮にもなります。そして、ぜひ使える英語を身につけたナースになってください。

<b>科目名</b>	外国語Ⅳ(韓国語)	<b>必修/選択の別</b>	選択
<b>授業担当者</b>	洪 昌憲	<b>評価方法</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	2年生・前期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	20時間

**<到達目標>**

韓国語を学ぶ事を通して病院で韓国人の患者とふれあいができるように、また、韓国語を親しみより民間交流に役に立たせる。

**<授業内容>**

- 第1回 ハングルの理解と書き順及び発音表 2H
- 第2回 基本の挨拶と会話 2H
- 第3回 自己紹介と会話 2H
- 第4回 観光地で使える会話、買い物、道案内 2H
- 第5回 家族紹介、二人で会話練習 2H
- 第6回 患者さんとの会話・K-popの歌を歌う。DVD視聴。 2H
- 第7回 病院で応用出来る会話と言葉の練習 2H
- 第8回 病院でよく使える単言及び会話 2H
- 第9回・第10回 韓国料理実習とその説明、韓国の食文化にふれあい 2H

**<授業方法>**

講義、二人ずつ会話練習、DVD視聴  
第9回と第10回は調理実習室で調理実習を行う。

**<評価方法の詳細>**

授業時間の2/3以上の出席と、提出物、授業態度を持って評価する。

**<必携図書>**

なし

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

‘文法から学ぶ韓国語’ ナツメ社  
しっかり身につく韓国語会話、ベレ出版

**<履修上の注意点>**

選択授業のため、教室が異なります。それぞれの教室で出欠席をとります。

**<学生に向けてのメッセージ>**

基礎から始まりますので気軽に参加して下さい。

<b>科目名</b>	外国語Ⅳ(スペイン語)	<b>必修/選択の別</b>	選択
<b>授業担当者</b>	堀内 カロラエミ	<b>評価方法</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	2年・前期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	20時間

**<到達目標>**

- 1.外国語の学習を通して、異なる文化に触れ、国際的視野および自らの視野を広げる。
- 2.日常生活、個人的な話題、家族、居住地、年齢などについての会話に参加する。

**<授業内容>**

- 第1回 ABC発音、挨拶、自己紹介。 2H  
 第2回 国籍を尋ねる、言う 2H  
 第3回 字句とスペル情報を要求する 2H  
 第4回 職業、住所、電話番号など尋ねる、言う。質問と回答の発音。 2H  
 第5回 時刻の見かた。時間を尋ねる、言う。 2H  
 第6回 誰かを紹介する、第三者への挨拶。 2H  
 第7回 スペインやラテンアメリカの違い、現状。(動画鑑賞、歌) 2H  
 第8回 物の存在を表現する。お店で物を頼む、値段を聞く。 2H  
 第9回・第10回 ラテンアメリカの家庭料理を作ろう。 4H

**<授業方法>**

講師作成資料と教科書を用いて講義形式ですすめる。  
 個人、グループで授業内容を実践する。  
 第9回と第10回は調理実習室で調理実習を行う。

**<評価方法の詳細>**

授業時間の2/3以上の出席と、提出物、授業態度を持って評価する。

**<必携図書>**

なし

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

自分の一番身近な単語やフレーズまたは基本的な挨拶から頭の中にスペイン語を増やしていく。リスニングには好きな動画や音楽を聴くのも良い。  
 Nuevo Ele inicial 1 (Virgilio Borobio)、Nhk World Radio、聞くスペイン語 (youtube)

**<履修上の注意点>**

講義資料はファイリングし講師と授業内容がわかるようにしておく。  
 授業内容のメモを取る。

**<学生に向けてのメッセージ>**

スペイン語の発音の良いところは読みやすく、ほとんどの単語は書かれているとおりに発音されることです。そのため、外国人が病院に来るときに使える短い文章を勉強することをお勧めします。同じ言語で話しかけられる事により患者は安心して治療を受けられると思います。

<b>科目名</b>	外国語Ⅳ(中国語)	<b>必修/選択の別</b>	選択
<b>授業担当者</b>	林 吟貞	<b>評価方法</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	2年・前期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	20時間

**<到達目標>**

- 異文化理解と外国語リテラシーの能力として、以下の技能の習得を目標とする。
- ・ピンイン表記に従って中国語の各音節を正しく発音することができる。
  - ・基礎的な文法規則を運用し中国語で模擬会話を行うことができる。

**<授業内容>**

- 第1回 中国ってどんな国？中国語ってどんな言葉？ 2H  
 第2回 中国語の基本・発音基礎 2H  
 第3回 おしゃべりしよう（初めての会話） 2H  
 第4回 場面で中国語を覚えよう 2H  
 第5回 基本的な単語と日常会話 2H  
 第6回 買い物に行こう 2H  
 第7回 遊びに行こう 2H  
 第8回 食べに行こう 2H  
 第9回・第10回 中華料理を作ろう 4H

※教室での学習状況により変更することがあります。

**<授業方法>**

授業時間数12時間以上の出席と、提出物、授業態度を持って評価する。事前学習を必須とする演習形式で授業を進める。毎回受講者が発音したり質問に答えたりすることにより実践的訓練を行う。  
 第9回と第10回は調理実習室で調理実習を行う。

**<評価方法の詳細>**

授業で学んだ基礎的な語彙・文法知識を活かして平易な中国語を理解したり、中国語で表現する能力を評価する。

**<必携図書>**

はじめての中国語 すくすく,朝日出版

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

中国語で初歩的なコミュニケーションがとれることを目標にします。それに必要な基本語彙、発音やアクセントそして文法事項を繰り返して練習し、自然に会話が身に付くようにする。

**<履修上の注意点>**

中国語の発音表記の方法、基礎的な単語や文法をしっかりと学ぶこと。  
 中国語の基礎的な構文を覚え、それを活用したコミュニケーション技能を身につけること。

**<学生に向けてのメッセージ>**

中国語の学習は耳と口が大切なので、音声教材をよく聴き、テキストを大きな声で朗読し、中国語のリズムを覚えましょう。教師と学生、または学生同士で実際に会話ができるように楽しく笑顔で練習してほしい。

<b>科目名</b>	芸術(美術)	<b>必修/選択の別</b>	選択
<b>授業担当者</b>	竹下 みさお	<b>評価方法</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	1年前期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	20時間

**<到達目標>**

芸術活動をとおして、豊かな感性・協調性・創造性・表現力を養う。  
 楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心を培い、心豊かな生活を創造していく意欲を育てる。

**<授業内容>**

第1回 「鉛筆で描く」身の周りの物を描く。 2H  
 第2～4回 「形を楽しむ」粘土を使って野菜や果物を作る。本物そっくりの色もつけてみよう。 6H  
 第5～6回 「色を楽しむ」モダンテクニックとカード作り 4H  
 第7～9回 「心の中の風景」自分の内面を自由に表現しよう 6H  
 第9回 「額装・鑑賞」 2H

**<授業方法>**

必要なものを用意し、内容説明後創作活動に入る。持ち物は授業前に連絡します。

**<評価方法の詳細>**

授業時間の2/3以上の出席と、提出物、授業態度を持って評価する。

**<必携図書>**

特にありません

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

美術館に足を運んだり画集を見る。画材屋さんや本屋さんのアートコーナーに行くなど、芸術に触れる機会を増やす。

**<履修上の注意点>**

需要に必要なもの：画用紙(A3スケッチブック1冊)、クロッキー帳(A4 1冊)、文房具(カッター・カッターマット・のり・はさみテープなど)鉛筆(B、2B、4B各1本)、消しゴム、水彩用具一式、カラーペン、色鉛筆、アクリル絵の具など 授業時に必要なものを忘れずに用意しておくこと。

**<学生に向けてのメッセージ>**

楽しんで、リラックスして授業に参加してください。まだ知らない自分の可能性を拓けていきましょう。

科目名	芸術(音楽)	必修/選択の別	選択
授業担当者	七澤 秀人	評価方法	総合評価
履修年次	1年前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	20時間

**<到達目標>**

芸術活動をとおして、豊かな感性・協調性・創造性・表現力を養う。

**<授業内容>**

第1回 ガイダンス 鑑賞と歌唱(学院歌ほか)  
 第2回～9回 音楽の基礎 簡易な音楽基礎  
 第10回 実習施設で歌を発表・まとめ

**<授業方法>**

授業は講堂で唄を歌う、または音楽の鑑賞を行う。

**<評価方法の詳細>**

授業時間の2/3上の出席と、提出物、授業態度を持って評価する。

**<必携図書>**

特にありません。

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

**<履修上の注意点>**

その都度楽譜が配布されるので楽譜をストックできるファイルを用意する。

**<学生に向けてのメッセージ>**

将来的に患者(相手)の訴えに耳を傾けることが出来るよう、相手の話を良く聴く習慣をみにつけよう。

<b>科目名</b>	保健体育 I (キャンプ)	<b>必修/選択の別</b>	選択
<b>授業担当者</b>	川村 協平	<b>評価方法</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	1年・前期/後期	<b>授業形式</b>	講義、校外活動
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	20時間

**<到達目標>**

1. 野外活動を通じた身体活動、集団生活の体験から、自己の生活や心身の健康について考えることができる。
2. 自然との好ましい関わりを体験し、仲間と心地よい生活を送るための自己の行動や役割を考えることができる。

**<授業内容>**

- 第1回～第4回 (1日目) グループ活動 8H  
 第5回～第8回 (2日目) グループ活動 8H  
 第9回・第10回 (3日目) グループ活動 4H

**<授業方法>**

キャンプかスキーを選択し2泊3日、野外活動を経験する。  
 場所は、丹波山、八ヶ岳、朝霧、高遠等のキャンプ場となる。事前にオリエンテーションがあるため、必ず参加すること。

**<評価方法の詳細>**

2/3以上の出席と、提出物、授業態度を持って評価する。  
 キャンプ終了後、体験を振り返ってレポートを記載する。表紙に、テーマ・期生・No.・氏名を記入する。  
 A4サイズ800字以上とする。 レポートテーマ「キャンプ前の私とキャンプ後の私」

**<必携図書>**

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

事前学習として野外関連の文献を読むことを勧める。

**<履修上の注意点>**

事前準備として健康管理・備品の準備を行う。  
 また安全のため、日常生活でできるウォーキングや自転車など、筋力トレーニングをしておく。

**<学生に向けてのメッセージ>**

野外活動を通して、自然・仲間・自分自身のすばらしさを感じましょう。

<b>科目名</b>	保健体育 I (スキー)	<b>必修/選択の別</b>	選択
<b>授業担当者</b>	川村 協平	<b>評価方法</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	1年・前期/後期	<b>授業形式</b>	講義、校外活動
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	20時間

**<到達目標>**

1. 野外活動を通じた身体活動、集団生活の体験から、自己の生活や心身の健康について考えることができる。
2. 自然との好ましい関わりを体験し、仲間と心地よい生活を送るための自己の行動や役割を考えることができる。

**<授業内容>**

- 第1回～第4回 (1日目) グループ活動 8H  
 第5回～第8回 (2日目) グループ活動 8H  
 第9回・第10回 (3日目) グループ活動 4H

**<授業方法>**

キャンプかスキーを選択し2泊3日、野外活動を経験する。  
 場所は、志賀高原 木戸池、横手山のスキー場となる。事前にオリエンテーションがあるため、必ず参加すること。

**<評価方法>**

2/3以上の出席と、提出物、授業態度を持って評価する。  
 スキー終了後、体験を振り返ってレポートを記載する。表紙に、テーマ・期生・No.・氏名を記入する。  
 A4サイズ800字以上とする。レポートテーマ「スキー前の私とキャンプ後の私」

**<必携図書>**

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

事前学習として野外関連の文献を読むことを勧める。

**<履修上の注意点>**

事前準備として健康管理・備品の準備を行う。  
 また安全のため、日常生活でできるウォーキングや自転車など、筋力トレーニングをしておく。

**<学生に向けてのメッセージ>**

野外活動を通して、自然・仲間・自分自身のすばらしさを感じましょう。

<b>科目名</b>	保健体育Ⅱ(キャンプ)	<b>必修/選択の別</b>	選択
<b>授業担当者</b>	川村 協平	<b>評価方法</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	2年・前期/後期	<b>授業形式</b>	講義、校外活動
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	20時間

**<到達目標>**

1. 野外活動を通じた身体活動、集団生活の体験から、自己の生活や心身の健康について考えることができる。
2. 自然との好ましい関わりを体験し、仲間と心地よい生活を送るために、自己と他者の役割を意識しながら行動することができる。

**<授業内容>**

- 第1回～第4回 (1日目) グループ活動 8H  
 第5回～第8回 (2日目) グループ活動 8H  
 第9回・第10回 (3日目) グループ活動 4H

**<授業方法>**

キャンプかスキーを選択し2泊3日、野外活動を経験する。  
 場所は、丹波山、八ヶ岳、朝霧、高遠等のキャンプ場となる。事前にオリエンテーションがあるため、必ず参加すること。

**<評価方法の詳細>**

2/3以上の出席と、提出物、授業態度を持って評価する。  
 キャンプ終了後、体験を振り返ってレポートを記載する。表紙に、テーマ・期生・No.・氏名を記入する。  
 A4サイズ800字以上とする。 レポートテーマ「キャンプ前の私とキャンプ後の私」

**<必携図書>**

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

事前学習として野外関連の文献を読むことを勧める。

**<履修上の注意点>**

事前準備として健康管理・備品の準備を行う。  
 また安全のため、日常生活でできるウォーキングや自転車など、筋力トレーニングをしておく。

**<学生に向けてのメッセージ>**

野外活動を通して、自然・仲間・自分自身のすばらしさを感じましょう。

<b>科目名</b>	保健体育Ⅱ(スキー)	<b>必修/選択の別</b>	選択
<b>授業担当者</b>	川村 協平	<b>評価方法</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	2年・前期/後期	<b>授業形式</b>	講義、校外活動
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	20時間

**<到達目標>**

1. 野外活動を通じた身体活動、集団生活の体験から、自己の生活や心身の健康について考えることができる。
2. 自然との好ましい関わりを体験し、仲間と心地よい生活を送るために、自己と他者の役割を意識しながら行動することができる。

**<授業内容>**

- 第1回～第4回 (1日目) グループ活動 8H  
 第5回～第8回 (2日目) グループ活動 8H  
 第9回・第10回 (3日目) グループ活動 4H

**<授業方法>**

キャンプかスキーを選択し2泊3日、野外活動を経験する。  
 場所は、志賀高原 木戸池、横手山のスキー場となる。事前にオリエンテーションがあるため、必ず参加すること。

**<評価方法の詳細>**

2/3以上の出席と、提出物、授業態度を持って評価する。  
 スキー終了後、体験を振り返ってレポートを記載する。表紙に、テーマ・期生・No.・氏名を記入する。  
 A4サイズ800字以上とする。 レポートテーマ「スキー前の私とキャンプ後の私」

**<必携図書>**

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

事前学習として野外関連の文献を読むことを勧める。

**<履修上の注意点>**

事前準備として健康管理・備品の準備を行う。

**<学生に向けてのメッセージ>**

野外活動を通して、自然・仲間・自分自身のすばらしさを感じましょう。

<b>科目名</b>	保健体育Ⅲ(キャンプ)	<b>必修/選択の別</b>	選択
<b>授業担当者</b>	川村 協平	<b>評価方法</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	3年・前期/後期	<b>授業形式</b>	講義、校外活動
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	20時間

**<到達目標>**

1. 野外活動を通じた身体活動、集団生活の体験から、自己の生活や心身の健康について考えることができる。
2. 自然との好ましい関わりを体験し、仲間と心地よい生活を送るために、自己と他者の役割を意識しながら行動することができる。

**<授業内容>**

- 第1回～第4回 (1日目) グループ活動 8H  
 第5回～第8回 (2日目) グループ活動 8H  
 第9回・第10回 (3日目) グループ活動 4H

**<授業方法>**

キャンプかスキーを選択し2泊3日、野外活動を経験する。  
 場所は、丹波山、八ヶ岳、朝霧、高遠等のキャンプ場となる。事前にオリエンテーションがあるため、必ず参加すること。

**<評価方法の詳細>**

2/3以上の出席と、提出物、授業態度を持って評価する。  
 キャンプ終了後、体験を振り返ってレポートを記載する。表紙に、テーマ・期生・No.・氏名を記入する。  
 A4サイズ800字以上とする。 レポートテーマ「キャンプ前の私とキャンプ後の私」

**<必携図書>**

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

事前学習として野外関連の文献を読むことを勧める。

**<履修上の注意点>**

事前準備として健康管理・備品の準備を行う。  
 また安全のため、日常生活でできるウォーキングや自転車など、筋力トレーニングをしておく。

**<学生に向けてのメッセージ>**

野外活動を通して、自然・仲間・自分自身のすばらしさを感じましょう。

<b>科目名</b>	保健体育Ⅲ(スキー)	<b>必修/選択の別</b>	選択
<b>授業担当者</b>	川村 協平	<b>評価方法</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	3年・前期/後期	<b>授業形式</b>	講義、校外活動
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	20時間

**<到達目標>**

1. 野外活動を通じた身体活動、集団生活の体験から、自己の生活や心身の健康について考えることができる。
2. 自然との好ましい関わりを体験し、仲間と心地よい生活を送るために、自己と他者の役割を意識しながら行動することができる。

**<授業内容>**

- 第1回～第4回 (1日目) グループ活動 8H  
 第5回～第8回 (2日目) グループ活動 8H  
 第9回・第10回 (3日目) グループ活動 4H

**<授業方法>**

キャンプかスキーを選択し2泊3日、野外活動を経験する。  
 場所は、志賀高原 木戸池、横手山のスキー場となる。事前にオリエンテーションがあるため、必ず参加すること。

**<評価方法の詳細>**

2/3以上の出席と、提出物、授業態度を持って評価する。  
 スキー終了後、体験を振り返ってレポートを記載する。表紙に、テーマ・期生・No.・氏名を記入する。  
 A4サイズ800字以上とする。  
 レポートテーマ「スキー前の私とキャンプ後の私」

**<必携図書>**

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

事前学習として野外関連の文献を読むことを勧める。

**<履修上の注意点>**

事前準備として健康管理・備品の準備を行う。  
 また安全のため、日常生活でできるウォーキングや自転車など、筋力トレーニングをしておく。

**<学生に向けてのメッセージ>**

野外活動を通して、自然・仲間・自分自身のすばらしさを感じましょう。